



オリンパスの事業と成長戦略



01 会社概要

02 事業概要

03 グローバル・メドテックカンパニーに向けた挑戦

04 株主還元

01

会社概要

会社概要

- 商号 : オリンパス株式会社
- 設立 : 1919年
- 連結売上高 : 7,939億円 (2019年3月期)
- 株式上場 : 東京証券取引所 市場第一部
(証券コード : 7733)
- 連結従業員数 : 35,124人 (2019年3月末)
- 連結子会社数 : 93社 (2019年3月末)



石川事業場 (東京都八王子市)

世界で展開するオリンパスの事業

オリンパスはこれからも医療、科学、映像の分野で、経営理念の実現のために革新的な製品やサービスを社会に提供します



医療
内視鏡事業 / 治療機器事業



科学事業



映像事業

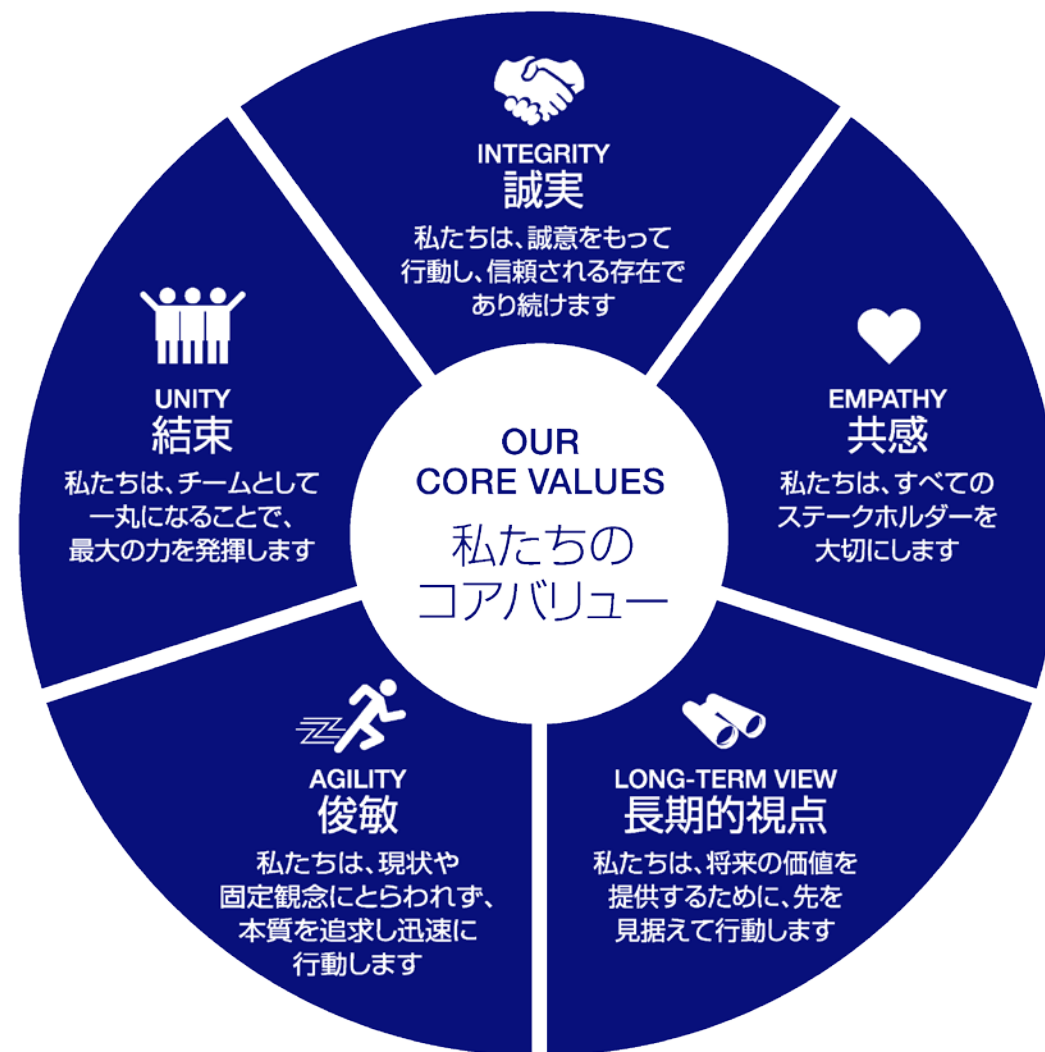
オリンパスの経営理念

OUR PURPOSE

私たちの存在意義

世界の人々の健康と安心、
心の豊かさの実現

Making people's lives healthier, safer
and more fulfilling



オリンパスの歴史

2019年 企業変革プラン「Transform Olympus」、経営戦略を発表

2016年 中期経営計画「16CSP」を発表

2012年 新経営体制が発足、ソニーと資本・業務提携

2011年 過去の損失計上の先送り発覚

2009年 分析機事業を譲渡

1975年 医療用硬性内視鏡に参入（外科分野）

1968年 米国に現地法人設立

1964年 欧州に現地法人設立

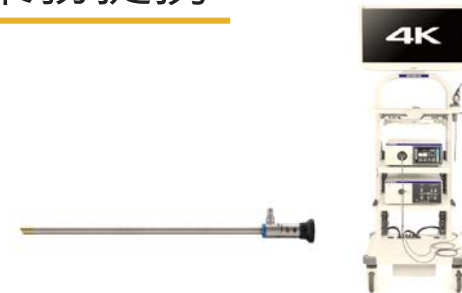
1950年 世界で初めて胃カメラを実用化

1949年 「オリンパス光学工業株式会社」に社名変更

1936年 カメラ事業に参入

1920年 商標を「オリンパス」と登録、顕微鏡「旭号」発売

1919年 株式会社高千穂製作所として創立



事業別売上高

487億円 6.1%

映像事業

1,042億円 13.1%

科学事業

2,155億円 27.1%

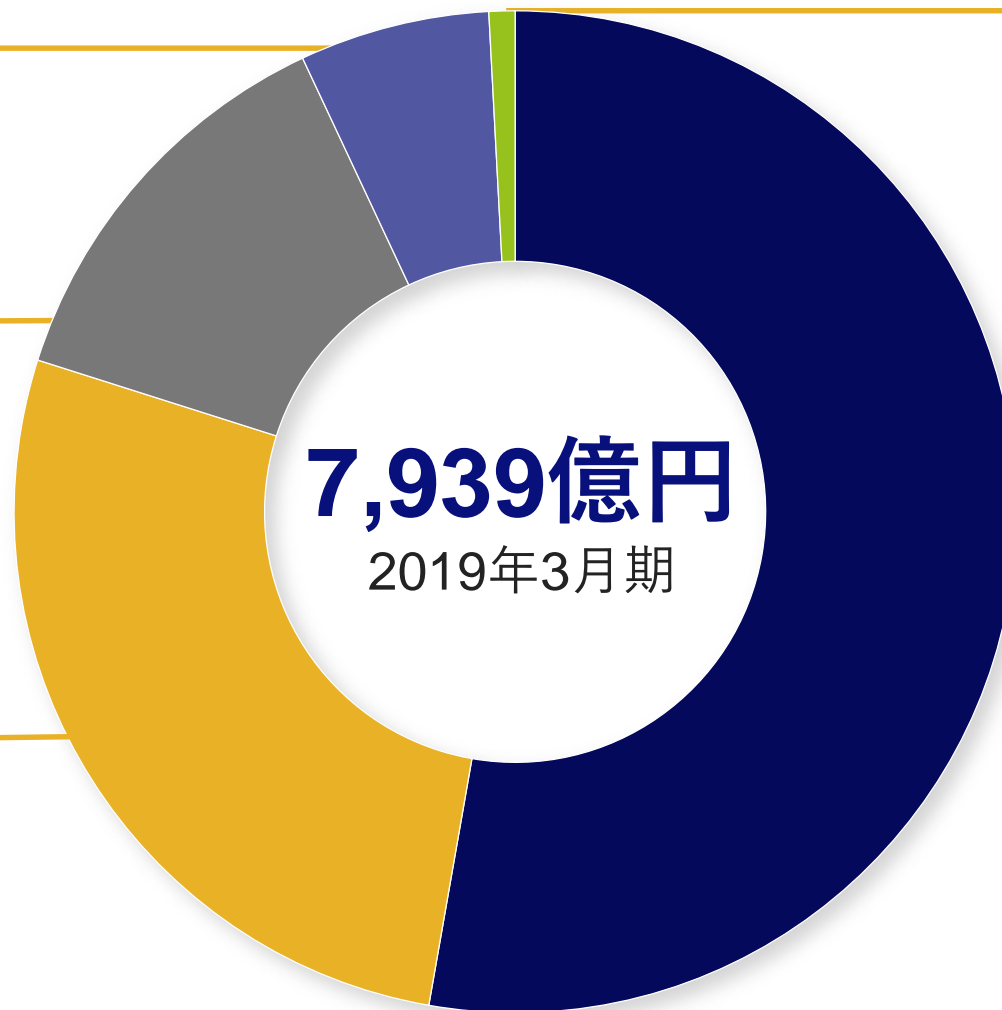
治療機器事業

67億円 0.8%

その他

4,188億円 52.8%

内視鏡事業

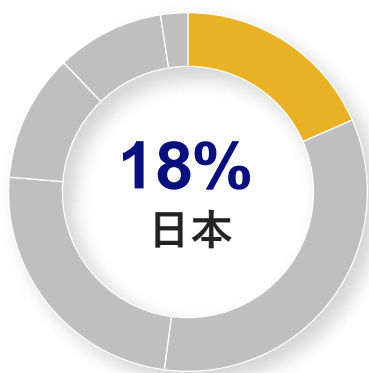


地域別売上高

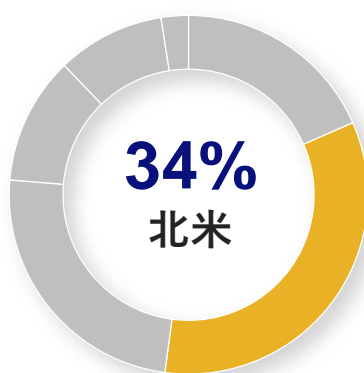


7,939億円

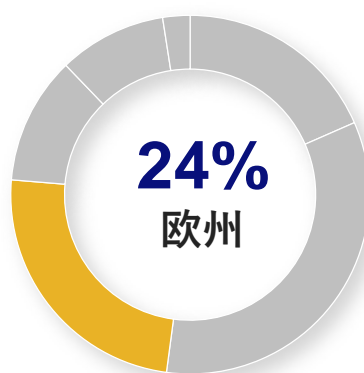
2019年3月期



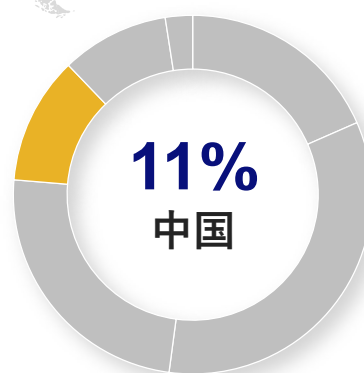
1,463億円



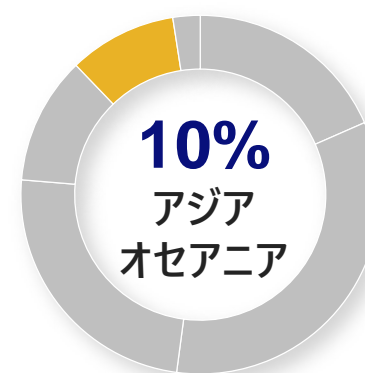
2,674億円



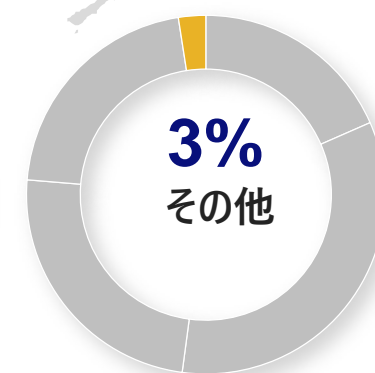
1,922億円



913億円



772億円



196億円

02

事業概要（医療分野）

医療分野

オリンパス医療分野が提供する2つの価値

医療分野を取り巻く環境

- ・高齢化の進展
 - ・医療コスト削減の圧力
 - ・患者さんのQOL（Quality of Life）の向上
- 

早期診断
(Early Diagnosis)

低侵襲治療
(Minimally Invasive Therapy)

オリンパスの医療分野が提供する価値

早期診断

低侵襲治療

拾い上げ

診断

生検・採取

内視鏡治療

内視鏡外科手術

外科手術



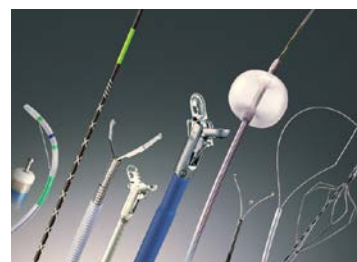
消化器内視鏡システム



拡大内視鏡
超音波内視鏡



生検鉗子/
細胞診ブラシ



内視鏡処置具



外科手術用
内視鏡システム



手術用エネルギー
デバイス

早期診断から低侵襲治療まで、より安全でより効率的な診断・治療につながる製品を通じて、「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」に貢献する

各製品における市場規模及び当社シェア

キャピタル製品



70%超

■ オリンパス ■ FUJIFILM, HOYA

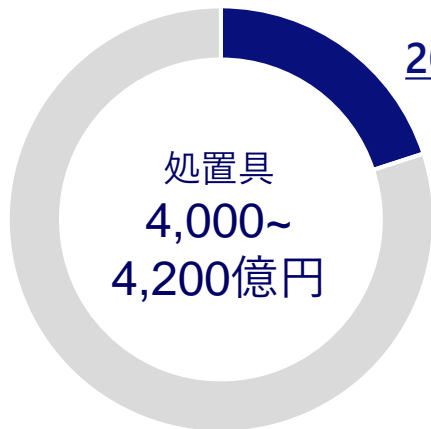


20%-25%

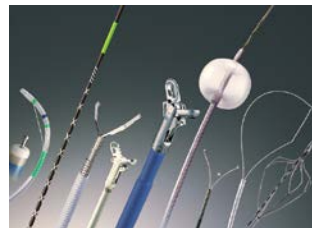


■ オリンパス ■ Storz, Stryker, Richard Wolf, Arthrex

シングルユース製品



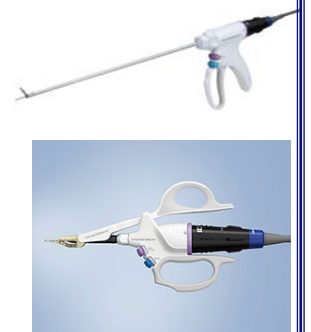
20%



■ オリンパス ■ Boston Scientific, Cook Medical



15%-20%



■ オリンパス ■ Ethicon, Medtronic, Applied Medical

オリンパス医療分野の強み

① 長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

- 半世紀以上に渡る医師との協働開発体制
- 最先端のテクノロジーを活かした製品開発

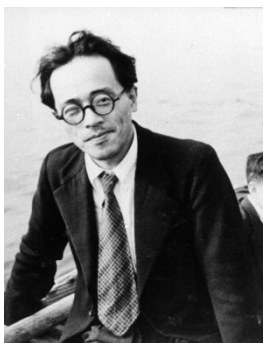
② 強固な事業基盤

- 約200拠点に広がる業界トップのサービス体制
- 内視鏡医の育成を支援するトレーニングセンター
- 医師のニーズを具現化する独自のものづくり力

①長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

1950年

胃カメラ開発



杉浦睦夫

1964年

ファイバースコープ



臨床試験に臨む宇治医師

1985年

ビデオ内視鏡システム



2002年

ハイビジョン内視鏡システム



2012年

• EVIS LUCERA ELITE

• EVIS EXERA III



医師のニーズにあった製品開発力、最先端の技術力

1950年に世界初の実用的な胃カメラを開発してから現在に至るまで、
医師との二人三脚で内視鏡技術の改良に取り組む

①長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

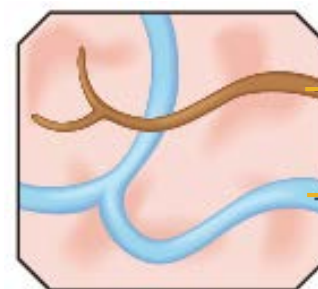
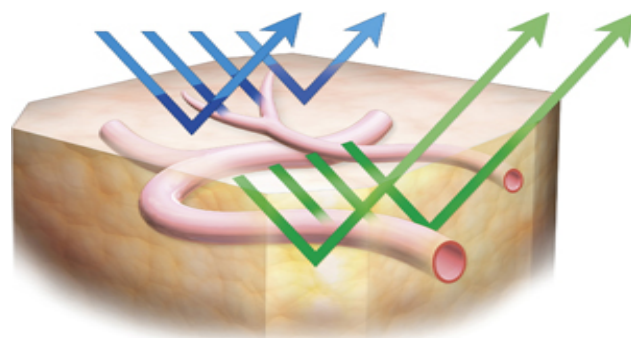
最先端のテクノロジーを活かした製品開発（消化器内視鏡領域）

N B I（Narrow Band Imaging）による毛細血管画像の強調表示



がんなどの微細病変の早期発見に寄与

狭帯域光を用いることでコントラストが強調される
粘膜表層の微細構造や毛細血管をより見やすくする



茶色：粘膜表層の毛細血管

青色：粘膜下組織内部の
太い血管

写真提供：国立がんセンター東病院（薫風会 佐野病院） 佐野先生

①長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

最先端のテクノロジーを活かした製品開発（外科領域）

IR（赤外光）・3D観察に対応した外科手術用内視鏡システム

IR・3Dから2D・NBIまで、多様な観察方法に対応可能
世界初の先端湾曲機能を搭載した外科手術用3Dビデオスコープ



ENDOEYE 3D 硬性ビデオスコープ



ENDOEYE FLEX 3D 先端湾曲ビデオスコープ



世界初のバイポーラ高周波と超音波の統合エネルギーデバイス

従来製品の約2倍のスピードで切除操作可能
7mmレベルの血管のシーリング（封止）をサポート



THUNDERBEAT



SONICBEAT



THUNDERBEAT
Open Extended Jaw



THUNDERBEAT
Open Fine Jaw

①長年に渡る医師との信頼関係を生かした製品開発

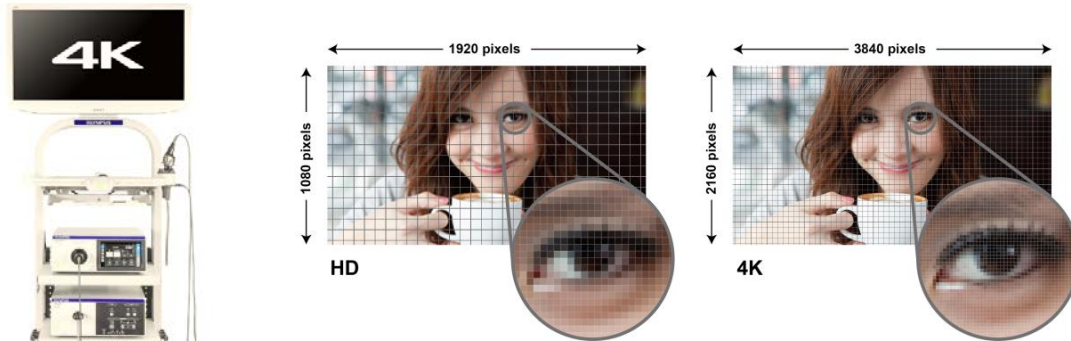
最先端のテクノロジーを活かした製品開発（外科領域）

ソニーとの合併会社で両社の強みを結集



4K技術搭載の外科手術用内視鏡システム

高精細画像で手術時の視認性向上に貢献
豊富な色再現性により、微細組織の容易な識別をサポート



フルハイビジョン映像と4K映像の比較

4K外科手術用内視鏡システム

4K 3Dビデオ技術搭載の手術用顕微鏡システム

高精細画像で緻密な手術をサポート
大型55型モニターによる観察を実現し、
術者の疲労軽減とチームサージャリーに貢献



手術用顕微鏡 ORBEYE



ORBEYEを用いた手術風景

②強固な事業基盤

グローバルで約200拠点に広がる業界トップのサービス体制

世界最大の内視鏡修理センター（米国）



② 強固な事業基盤

内視鏡医の育成を支援するトレーニングセンター

新興国での事業拡大を目指し、トレーニングセンターを順次開設

【アジア・オセアニア売上成長グラフ】

(百万円)

140,000

120,000

100,000

80,000

60,000

40,000

20,000

0



過去15年間で売上は
15倍に急成長！

②強固な事業基盤

多品種少量生産を実現するものづくり力

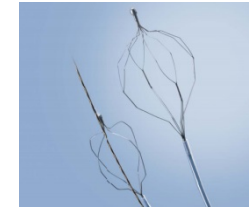
既製品に存在しない設備、加工部品などを内製化

数ミクロンレベルの超精密部品を具現化する微細加工技術

さまざまな技術とノウハウを細かく組み合わせて調整する
日本特有の「すり合わせ技術」

開発からアフターケアまで一貫した製造体制を構築
(医療現場のフィードバックを適宜生産に反映)

医療分野主力製造拠点 東北3工場



処置具「バスケット鉗子」

●青森オリンパス



内視鏡スコープ

●会津オリンパス
●白河オリンパス



02

事業概要（科学事業）

科学事業

「世界に認められる顕微鏡をつくる」

「顕微鏡の国産化により、
医学の発展に貢献したい」

1920年

「旭号」
オリンパス初の顕微鏡



生物顕微鏡

レーザー顕微鏡



蛍光顕微鏡



産業用機器

工業用顕微鏡



工業用内視鏡



非破壊検査機器



蛍光X線分析装置

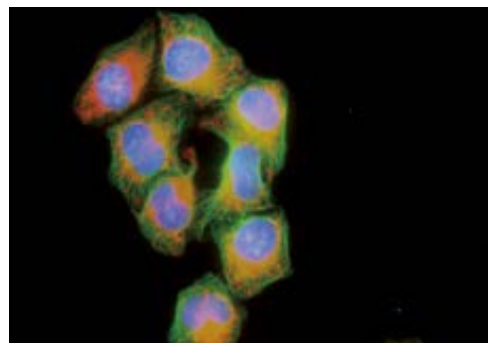


生物顕微鏡

次世代医療を切り開く最先端研究を支援

脳神経、がん研究・病理診断、再生医療（iPS細胞など）

先進の研究領域から、臨床、教育まで幅広く貢献

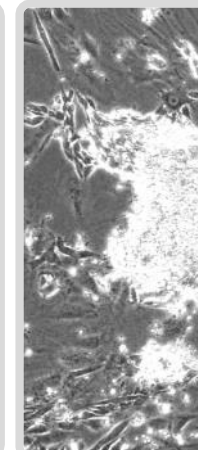
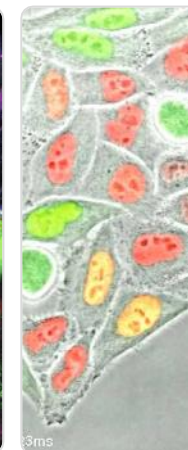
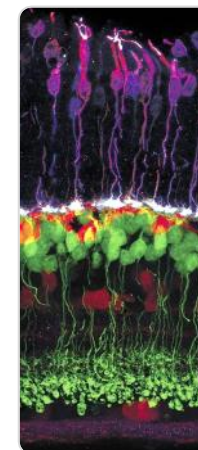


ライブセルイメージング



生物顕微鏡

脳神経科学 がん診断 がん病理診断 再生医療



産業用機器

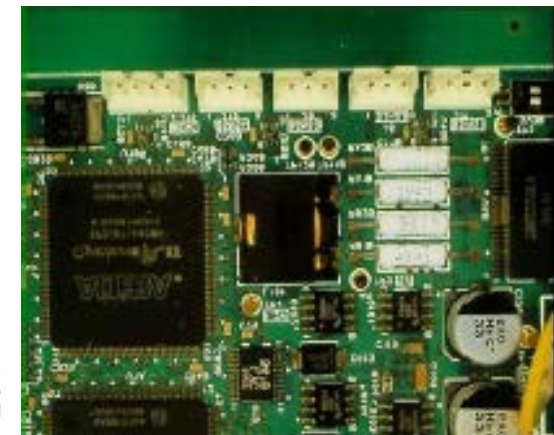
産業製品の生産性向上に貢献

半導体、電子部品、自動車部品の検査

安全安心に暮らせる社会づくりに貢献

航空機エンジン、プラント配管等の非破壊検査

物質特性の定性的・定量的解析



半導体検査



航空機エンジン検査



プラント配管検査



部品の成分元素検証

02

事業概要（映像事業）

ミラーレス一眼



OM-D E-M1 Mark II



E-PL10



交換レンズ



超望遠域での手持ち撮影（三脚不使用）を実現

コンパクトカメラ



TG-6

ICレコーダー



LS-P4



DM-750



VP-15

映像事業

収益性の高いミラーレス一眼に集中

- | | |
|-------|---|
| 2009年 | ミラーレスカメラ発売により新規市場を開拓 |
| 2010年 | 女性層、アマチュア層向けにラインナップを強化 |
| 2012年 | ミラーレスカメラ高級シリーズ OM-D E-M5 発売 |
| 2013年 | ミラーレスカメラ最上位機種 OM-D E-M1 発売 |
| 2013年 | ミラーレスカメラ戦略モデル OM-D E-M10 発売 |
| 2016年 | ミラーレスカメラのプロフェッショナルモデル
OM-D E-M1 Mark II 発売 |
| 2019年 | ミラーレスカメラのプロフェッショナルモデル
OM-D E-M1X 発表 |



PEN E-P1



PEN E-PL1



OM-D E-M5



OM-D E-M1



OM-D E-M10



OM-D E-M1 Mark II

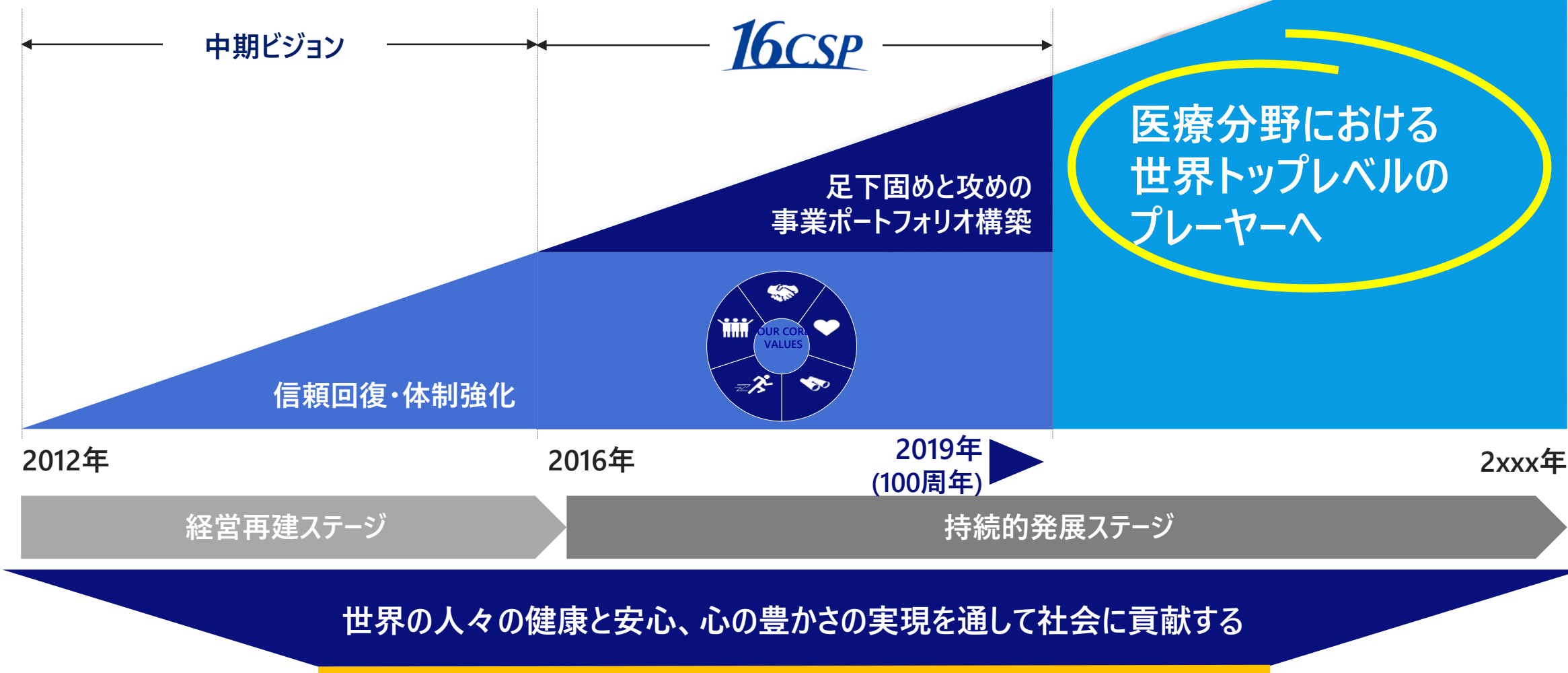


OM-D E-M1X

03 グローバル・メドテックカンパニー に向けた挑戦

グローバル・メドテックカンパニーを目指して

創立100周年の節目を越えて、持続的な成長を遂げる



企業変革プラン「Transform Olympus」

グローバル・グループ
一体経営体制へ転換

- グローバル経営体制と5名の経営執行責任者によるリーダーシップの強化
→迅速な意思決定、リスクの一元化

グローバル人事制度への転換

- 全社の人材マネジメントシステムを刷新
→グローバル・グループ統一で適所適材配置を実現

“Transform Medical”
医療事業の再編成

- 「内視鏡事業」「治療機器事業」の2事業部門体制に再編し、「治療機器事業」部門は、米国内にグローバル事業統括拠点を配置
→迅速で無駄のない事業運営、効率的かつタイムリーな製品導入による成長ポテンシャルの最大化

コスト削減及び資本効率
改善への取り組み

- 2020年3月期の販売管理費を2018年3月期の水準まで圧縮
- 設備投資、運転資本を見直し、戦略的事業投資と株主還元に向けたフリー・キャッシュ・フローを増加
→グローバル医療機器市場における同業他社と同水準まで大幅に改善し、株主価値を最大化

取締役会のダイバーシティ化を
伴う指名委員会等設置会社
への移行

- ビジネスのグローバル展開に即した「指名委員会等設置会社」へ移行
- グローバルな知見、経験を有する3名の新しい取締役候補者の選任を検討
→経営の監督機能およびガバナンスの強化と企業価値の一層の向上

真のグローバルなメドテックカンパニーとして持続的な成長を実現

戦略目標と業績指標



世界をリードするメドテックカンパニーへと成長し、革新的な価値によって患者様、医療従事者、医療機関、医療経済にベネフィットをもたらし、世界の人々の健康に貢献する



年率 **5-6%**の売上高成長率を持続



>20%の営業利益率¹を目指す



当社が注力する治療領域において
リーディングポジションを獲得
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

¹ 特殊要因調整後

内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化

総合的な内視鏡の製品ポートフォリオを構築し、ビジネスモデルを進化することで、早期診断の価値をより一層向上



リユース内視鏡の競争優位性の堅持

継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充

リユース内視鏡を補完する製品ラインアップの提供



内視鏡の販売・サービスモデルの強化

保守サービス、症例ベースのビジネスモデルにシフト

内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化

内視鏡診断、処置の新たなスタンダード化を目指した新内視鏡システム

病変の発見、分類、ステージング、処置に革新をもたらす技術により、内視鏡診断・処置の新スタンダードとなる内視鏡システム



発見



CADe¹

- AIによる病変の検出機能による病変の見逃し防止の支援

鑑別診断



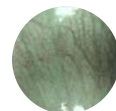
広被写界深度

- より広い深度の提供で拡大観察を容易とし、拡大内視鏡検査の普及

CADx²

- リアルタイムでのAIによる診断補助情報の提供

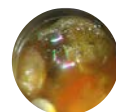
病期診断



拡大内視鏡技術

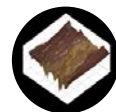
- 高拡大倍率、精細な画像情報の提供により精密な内視鏡診断

処置



血管可視化技術

- 血管の可視化による内視鏡処置の効率化



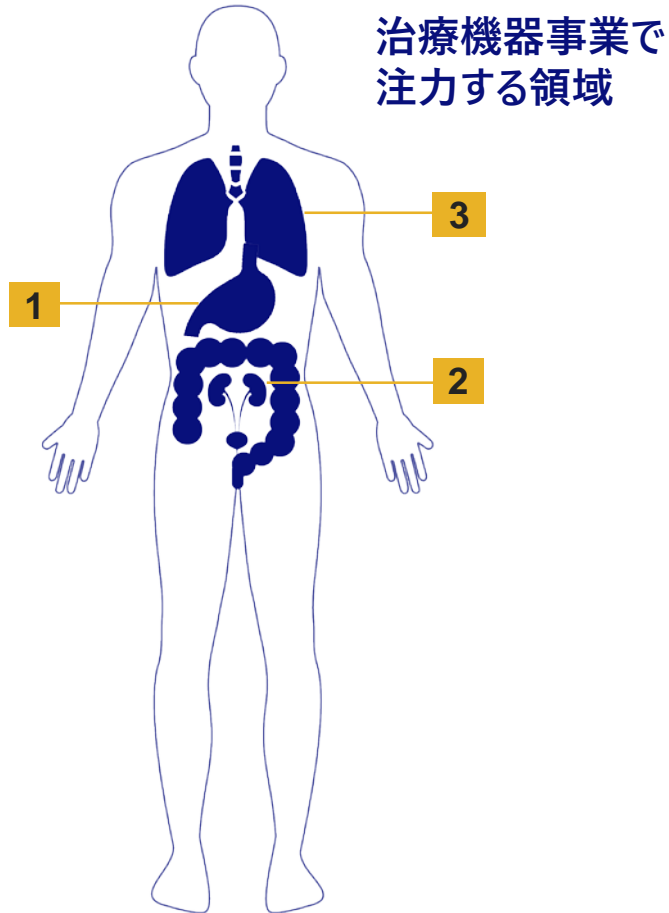
3D imaging

- 空間情報の提供による内視鏡処置の効率化とラーニングカーブ短縮

1. CADe – Computer-aided detection 2. CADx – Computer-aided diagnosis

治療機器事業への注力と拡大

治療機器事業での成長を加速し、低侵襲医療による価値を高めるため、3つの治療領域でリーディングポジションを確立



1 消化器科

~44億ドル

市場規模
No.3のポジション

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



2 泌尿器科

~18億ドル

市場規模
No.2のポジション

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



3 呼吸器科

~3億ドル

市場規模
No.1のポジション

BLVR¹市場をリードしつつ、肺がんの早期診断、処置の分野で成長拡大

1 Bronchoscopic Lung Volume Reduction

2023年3月期 財務ガイダンス

2020年3月期

2023年3月期 目標水準



営業利益率¹

約 **11%**



>20%

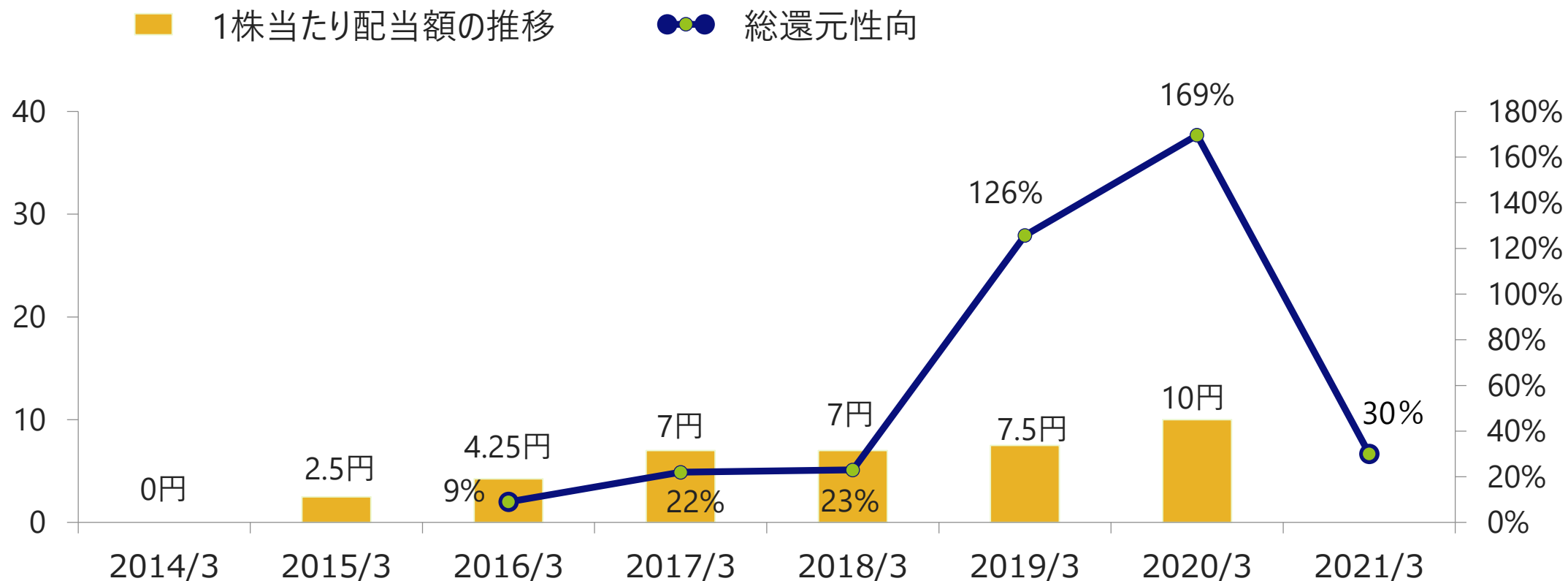
¹ 特殊要因調整後

04 株主還元

株主還元

資本配分の基本方針

- 2021年3月期までは、16CSPの方針である総還元性向30%を目指す
- 2021年3月期以降は、これまで同様に事業成長等への投資を優先しつつ、株主価値を考慮した積極的な株主還元を実施



OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

【参考資料】 ホームページ等お役立ち情報

● 投資家情報ページ

<https://www.olympus.co.jp/ir/>

- 直近の決算情報や統合レポートなど、投資家の皆さま向けの情報をご紹介します



QRコード

● オリンパスニュースメール登録

<https://www.olympus.co.jp/ir/mail.html>

- 当社ニュースリリースや適時開示情報を配信しています。ご希望の方は是非ご登録ください



QRコード

● 個人投資家の皆さまへ

<https://www.olympus.co.jp/ir/individual/>

- 個人投資家の皆さま向けに当社事業内容や強み、歴史等について分かりやすくご紹介しています



QRコード

● 「OLYMPUS NEWS」アプリ

- 当社製品の最新情報や決算情報、適時開示情報、経営に関する情報等を配信しています



QRコード